

2011年8月 12泊13日

福島県 Hさん、Kさん、kさん、Nさん、Sさん

この度は、生活クラブ北海道の沢山の皆様にお世話になりましたこと深く感謝申し上げます。

初めは、このような形で皆さんにご面倒をおかけし、心苦しい思いでしたが、宿泊地にて迎えていただいた際とても気さくに受け入れていただき、田舎の親戚のもとへ遊びに来たかのように思えたのが第一にお会いしての印象でした。

急遽決まったミステリーツアーは、私達にとっていまや竜宮城での13日でした。夢の世界・・・いや私達にだけ舞い降りた現実の第二のふるさとのプレゼントでした。親子で心身ともにリフレッシュできた本当にいい所でした。

生活クラブ北海道のみなさんに出逢い、手厚くて深いおもてなしをいただいた事は、今の私達の免疫力の源となりました。

福島に帰り、自分のふとん、茶碗・・・住み慣れた我が家はやっぱりいいものだと懐かしく落ち着きました。これからまた放射性物質を気に掛けた生活となりますが、前向きに知識を得ながら立ち向かいます。私達には北海道でいただいた免疫力の源があります。その思い出を胸に、みなさんの笑顔を思い浮かべながら明るく元気に過ごしていきたいと心から思います。

最後に、生活クラブの組合員であったからからこそ北海道と福島の生活クラブに手を差しのべられ、このツアーに参加出来た事を心より幸せにそして誇りに思います。この企画に携わってくださった皆様、本当に本当にありがとうございました。

2012年7月 10泊11日

福島県福島市 Sさん

～お世話になったみなさんへ～

このたび、「涼しく遊ぼう、北海道で夏休み11日間！」に参加させていただきました。震災以来、福島＝放射能と思われ、他県で“福島県民”と名乗れず、人目を気にすることが多く、子どもをのびのびと遊ばせてあげられず、ストレスばかりがたまり、子どもも私もイライラして過ごす日々でしたが…。初対面の私たちにも、優しく声を掛けていただき心置きなく11日間を過ごすことができました。

子どもも制限なく外遊びができ、本来あるべき姿なんだろうなあ～と思いました。福島に残って生活していることが間違っているのでは…。スーパーに買い物に行って、子どもが「この野菜（果物）どこ産？食べれる？食べれない？」など言っていることが、あたり前になっていることが間違っているのでは…。など自問自答しながらの生活に慣れ、いろんな事にマヒしてましたが…。北海道であたり前のことをあたり前にできることって大切なんだなあ～と感じました。

過ぎてみると11日間とあっという間でしたが、心も体もリフレッシュでき、また、福島で頑張れるパワーをもらったような気がします。また、今回たくさんの素敵な出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

2014年7月 12 泊13日

福島会津若松市 Sさん

～お世話になったみなさんへ～

爽秋の候、皆様いかにお過ごしでしょうか。こちら会津ではセミの声も聞かなくなり、空を見上げるとすっかり秋の空になってきています。

さて、7/22からの北海道滞在では大変お世話になりました。子ども2人を連れて10日以上遠く離れた北海道にいることに、自分で申し込んでおきながら出発が近づくにつれて楽しみがふくらむ分、不安もさらにふくらんでいたように思います。

しかし、実際に行ってみて思ったことは、宿泊先にJAカレッジさんを選んでいただき本当に良かったと思いました。先生方にもいろいろとお世話していただいたおかげで、毎日安心して過ごすことができました。

なにより、学生のみなさんが元気よく会う度に挨拶してくれることが、とても嬉しかったです。子どもたちにも良い刺激となりました。下の子は、幼稚園で先生に恥ずかしがって朝の挨拶が小さい声でしたが、2学期からは、「おはようございます!」と大きな声で言えるようになりました。みなさんの挨拶がはつらつとしていたので、親たちの間では、JAカレッジは全員が野球部なのでは!という話まで出ました。食堂などでも声を掛けてもらったり、手伝っていただいたりして、子どもたちにも嬉しかったようです。

毎日の食事では、食堂のみなさんに大変お世話になりました。おかげで体調を崩すことなく過ごすことができ、帰ってきてからも有り余る元気さです。今日のご飯は何かなぁと毎日楽しみでした。とにかく本当にご飯がおいしくて。家族全員、体重がプラスになって帰ってきました(*_*; ありがとうございます。

そちらにいたときに甲状腺検査を受けましたが、校長先生や先生方がお話しを病院として下さったと聞いております。ありがとうございます。福島でも集団検査をしましたが、問診等、医師の方々との直接のやり取りは全くありません。厚生病院では、丁寧に検査していただき先生とも直接お話しすることもできました。安心もできましたし、きちんと診察していただけて本当にうれしかったです。

大変お世話になりました。ありがとうございます。

北海道での充電で、秋の運動会も盛り上がりそうな気がします。子どもたちも、また北海道に行く事を楽しみにしているようです。

本当にありがとうございます。

最近、不安定な天気各地で被害が出ているのを目にします。みなさまもお気をつけください。朝夕、涼しくなっていますのでお体ご自愛下さいませ。

2021 年 福島 S さん

『絆』～福島より感謝を込めて～

北海道生活クラブのみなさま、お元気ですか。昨夏は北海道保養が中止となり、本当に残念でした。2020 東京オリンピックが延期になり、現在も続く外出自粛や移動制限、マスクなしでは過ごせない日常。ネットに溢れるデマや誹謗中傷。世界規模で、新型コロナウイルスは私たちの日常を一変させました。

10 年前、私たちは同じことを福島で体験しました。当たり前の日常と共に、多くの大切なものを失うことを。そして、子どもたちの自由を奪わねばならない辛さを。

夏が来るたびに北海道での保養を心待ちにする日々も、7 年か経ちました。昔のことですが(14 年前)、長男が生まれる半年前の旅行先を選んだのは偶然にも北海道でした。空に伸びていくかのように一直線の道。本州(内地)では考えられない広大な畑に積み上げられた玉ねぎのコンテナ。福島県も自然豊かなところですが、北海道のスケールは、まさに『でつかいどうー!』でした。

2011 年 3 月 11 日、突如私たちは平穏な日常を奪われ、見えない恐怖や不安と隣り合わせの生活を余儀なくされました。そんな中、北海道の皆さんや全国の方々から支援の手が差し伸べられに時、『パンドラの箱』のように、私たちの周りに在るのは悲しみや苦しみだけではないと感ずることができました。震災後 3 年間、子供たちを少しでも放射能から遠ざけるため、長期休みには県外に出ていきました。しかし、ただ遠くに行くのでは子どものニーズに合わず、多くの課題に直面しました。4 年目に北海道保養に来てから、JA カレッジで過ごす時間を子供たちは心から楽しみ、今では家族みんなが北海道で過ごす夏が来るのを心待ちしています。

北海道保養で共同生活を送る人たちは、震災当時小学生未満の子からお母さんのおなかの中にいた子供たちを持つ家族です。保養中、福島では決して話すことが出来ない、福島で子供を育てることへの葛藤を話す内、悩んでいたのは自分ひとりではなかったと知りました。好奇心旺盛で何にでも興味を示す子供たちの手を止めるしかなかったあの時。石拾いや砂遊び、外で出会うたくさんの遊びをほほえましく見守ることが出来なかったあの時を悔やまない親はいません。ある絵本の帯にこんなキャッチコピーが書かれていました。

『過ぎ去ってしまったら二度と戻らない子ども時間、かけがえのない大切な時間』

私たちにもありますよね。子ども時代の、たくさんの経験と大切な思い出が。そこで育まれた土台は成長していく過程になくてはならないものです。震災後、小さなわが子を育てるため、今までだったら当たり前のそんな環境こそ求めていたのです。もちろん、それよりも大きいお子さんの親御さんたちも思いは同じでしょう。

10 年の歳月が経ち、私たちを取り巻く環境も大きく変わりました。現在の福島県は、復興政策による除染や開発が急ピッチで進められ、放射能は低減期に入って、『福島は安全』だとアピールされ、震災の記憶は着実に忘れ去られようとしています。ただ、皆さんは覚えていますか。震災当時、盛んに謳われたこの情報を。「放射能は、100 年以上留まり続ける」福島県の親は、この呪縛から逃れることはできません。今でも頭の片隅に子供たちの将来への不安を抱えながら暮らしています。

結びになりますが、震災という特殊な状況下で、約 1,000 キロ離れた北海道から差し伸べられた温かい手で結はれた『絆』は、子供たちだけでなく、親にも明るい希望を与えてくれています。そして、歳月と共に全国の保養も減っていく中、こうして続けてきてくれる『縁』に応えるためにも、私たちも、『福が満開、福のしま・・・』をお返しできるように、福島未来を担う子どもたちを懸命に育てていきますので、見守って頂けたら幸いです。

今夏は北海道生活クラブの皆さまと再会できることを心より楽しみにしています。

2023 年 12 月 5 日 6 日

福島県 相馬市 S さん

北海道生活クラブの皆様へ

今回、私たち家族を保養にご招待頂いてありがとうございました。

滞在中に小樽でガラス作り体験、白い恋人パーク、登別で温泉、旭山動物園（向かうも悪天候で断念）

狸小路で夕食と、北海道を満喫できました。

北海道はどこへ行っても人が優しく感動しました。父が北海道出身なので、悪天候の江別（父の出身地）を通った時は、この寒さの中、貧しかった幼い頃の父はどうやって過ごしていたのだろうと涙が出ました。きっと人々が助け合い北海道の人々は生きてこられたのでしょう。その温かさを私たちは受け取っているのだなと思いました。北海道生活クラブの方々が情深いのはこんな事にも関係があるのではないかと思いを巡らせていました。

原発事故の思い出はここに書くと、とても長くなってしまうので割愛させていただきます。原発事故が起こった福島の現場では、皆さんご指摘の通り、大丈夫、大丈夫という説明しか聞けません。人体には影響ない、この一点張りです。ALPS 処理水についての説明もそうでした。（小学校就学時健診の時に相馬市の担当者から聞かされました。）

リスクとベネフィットは必ず両者存在し、リスクも必ず説明すべきだと私はと思いますが、それを説明する側もされる側も関心が無いように思えます。自分の頭で考える人はほぼいません。

国からの一方的な洗脳的な情報のみが与えられます。私たちもそうは言っても日常を送らなければいけないので、周りと同様に感覚がマヒしている事は否定できません。しかしこれからは、この汚染を浄化する方法や止める方法を求める事、原発の稼働を全て止めていく事を声を上げて訴えて行かなければならないと思っています。子どもたちの未来の為に出来ることをしていこうと思っています。

北海道生活クラブの方々には、ここまで親身に福島の子どもたちの事を考えてくださり、ありがとうございます。私もこの思いを受け取って、子どもたちの為に活動をしていきたいです。本当にありがとうございます。